

第3章 将来像とキャッチフレーズ

前章での調査結果の分析やワークショップ等の運営を通じて、「市川市らしい観光」とは、市民や近隣からの来訪者が、各地域の多彩な観光資源やちょっとした非日常感を楽しみ、都心にはない安らぎを感じられることであると考えます。このような市川市の観光の楽しみ方を前提とし、観光振興ビジョンの将来像を定めました。

3-1 将来像

計3回にわたり実施された「市川市のこれからの観光を考えるワークショップ」では、「市川市の魅力」、「地元への愛着」、「人との交流や担い手同士の連携」など、様々な意見が参加者から出されました。それらの意見を集約し、市川市らしい観光を推進するために目指すべき将来像を設定しました。

将来像 1 多彩な魅力を育て、輝き続けるまち

将来像 2 市民に愛され、来訪者がファンになるまち

将来像 3 一人一人が担い手となり、情報や交流の“つながり”が広がるまち

将来像 1 多彩な魅力を育て、輝き続けるまち

- ・歴史、文化、自然、グルメ etc なんでもある
- ・観光資源が凝縮されている
- ・個性的な地域毎の魅力を活かした方がいい



ワークショップ

<将来像としてのありたい姿>

市民が自分の地域への理解を深め、市川市が持つ歴史・文化・自然・グルメなどの多彩な魅力を自ら育て上げることで、様々な関心を持つ市内外の人を惹き付けている街。

各地域がそれぞれの魅力を磨き上げ、輝きを増していく姿が実現されている街。



将来像1のイメージ

将来像 2 市民に愛され、来訪者がファンになるまち

- ・まずは市民に市川市の魅力をもっと知ってほしい
- ・とても住みやすい、都心にはない安らぎ
- ・市民が地元愛を深め、地域の魅力を広める・伝え合うようになりたい
- ・外部(都心)からのアクセスの良さを活かしたい

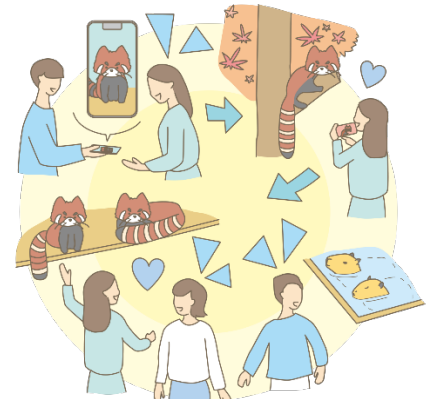


ワークショップ

<将来像としてのありたい姿>

市民が市川市の魅力をより体感することで地元愛を深め、住みやすさや様々な観光資源が市内外の人に広く理解されている街。

来訪者が、都心にはない魅力や安らぎを感じ、アクセスの良さを活かして気軽にリピートし、“市川ファン”が生まれる街。



将来像2のイメージ

将来像 3 一人一人が担い手となり、情報や交流の“つながり”が広がるまち

- ・10代、20代の若者に参加してほしい
- ・学生の横のつながりを活かしたい
- ・外国人とのつながりも深めたい
- ・市内の別の地域へのPRや誘客など、市川市内の関心をもっと広めたい



ワークショップ

<将来像としてのありたい姿>

市民や来訪者、地域団体や事業者らが自ら市川市を楽しみつつ、観光の担い手となって互いに交流し、情報発信に取り組んでいる街。市内の他の地域との交流が積極的に行われ、学生や在住外国人らも地域の行事等に参画している街。

学生が友達を、子どもが家族を呼ぶなど、市川市を楽しんだ人がきっかけとなり、その魅力が新たな人を通して広がっていく街。



将来像3のイメージ

3-2 キャッチフレーズ

市民・地域事業者・行政らが将来像を共有し、地域が一体となって観光を推進できるように、「市川市のこれからの観光を考えるワークショップ」でキャッチフレーズを定めました。

気づいて市川 築いて ICHIKAWA



<キャッチフレーズに込めた想い>

気づいて市川

- * 今ある市川市の魅力を知らない人に知ってもらいたいという「気づいて」と、市民にも日常に隠れた市川市の魅力に「気づいて」ほしいという「想い」。
- * 気づいたら市川市を好きになっていたという、市川ファンを増やしたいという「想い」。
- * 市民や来訪者が、自分なりの「気づき」を大切に、それぞれの感性や価値観で、市川市の魅力的な姿を思い描いてもらいたいという「想い」。



築いて ICHIKAWA

- * 「人」と「人」、「地域」と「地域」とが繋がることで、新たな関係性を「築いて」いきたいという「想い」。
- * 築かれた関係性によって、市民・事業者・学生・在住外国人・行政など様々な主体が連携し、「ともに築く」という「想い」。
- * これから市川市の新たな観光を「作り上げる=築く」という強い「想い」。

